

〔研究〕

腎血管筋脂肪腫の1例

足利赤十字病院 臨床検査部¹⁾柏瀬 芳久 須永 義市 中村 雅哉 今泉 悅子
柏瀬登美子 川島勝士郎 小島 勝同 泌尿器科²⁾

川島 清隆 岡崎 博 高橋 淳朋

要 約

腎血管筋脂肪腫の細胞像について検討した。本症例に捺印細胞標本では血管筋脂肪腫の構成細胞である、血管細胞、平滑筋細胞、脂肪細胞の3種類が主として認められた。裸核の細胞も小数ながら出現し、核内封入体もみられるものもあった。文献的にもこのような細胞の出現する症例が記載されており、血管筋脂肪腫の捺印細胞所見の一つと思われる。

はじめに

材料と方法

腎に発生する血管筋脂肪腫 (angiomylipoma : AML) は比較的まれな疾患でその細胞所見の報告は5例をまとめた広川らの報告¹⁾を除いては散発的に報告されているにすぎない。今回、我々は AML の1例のを経験したのでその捺印細胞所見を報告する。

細胞診標本は摘出腎の捺印細胞標本を用いパパニコロウ；Giemsa 染色を施した。病理組織学的検索にはホルマリン固定パラフィン切片標本にHE 染色を施した。免疫組織学的検索には抗平滑筋アクチン (DAKO)、S-100 蛋白 (DAKO) を酵素抗体間接法で検索した。

症 例

細胞所見

症 例：48歳、女性

背景はクリーンでその中に血管成分、平滑筋細胞、脂肪細胞からなる細胞集団が多数出現していた。血管と考えられる部分では結合性に乏しくシート状に出現するものや(図1)紡錘形の核を有する内皮細胞があたかも毛細血管腔を取り囲むかのように配列するものが見られる。平滑筋由来と考えられる細胞は長紡錘形で、シート状ないし束状に配列していた。核は長紡錘形ないし長橢円形で小型の核小体も認められた。(図2) 脂肪細胞は集塊としているものがみられた。(図3) これら

主訴：下腹部痛

家族歴：特記事項なし。

既往歴：昭和62年高血圧にて加療。昭和63年、子宮筋腫にて子宮全摘。結節硬化症既往歴はない。

現病歴：平成5年12月27日頃より下腹部痛があったが放置。平成6年1月6日、他院の腹部超音波所見から腎腫瘍の疑いで当院受診し3月16日右腎摘出を行った。

図1 血管細胞がシート状に配列して認められる。
(Pap染色×100)

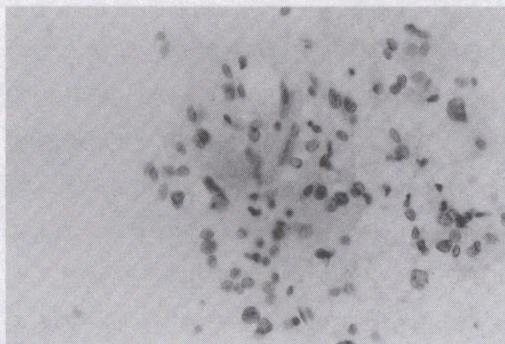


図2 束状に配列した平滑筋細胞がみられる。
(Pap染色×100)

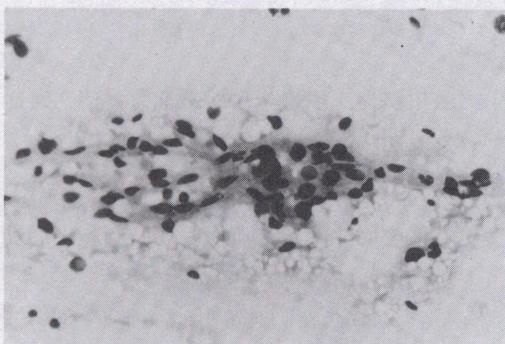
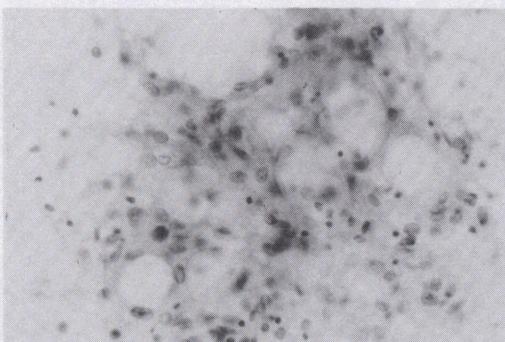
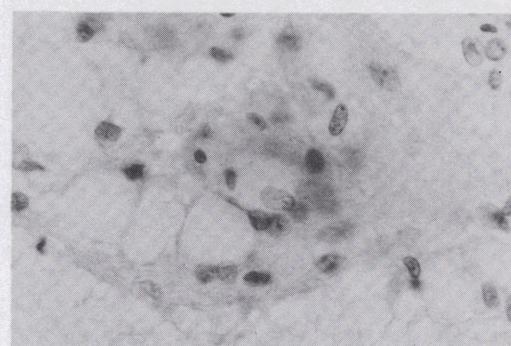


図3 大小の空胞を有する脂肪細胞をみる。
(Pap染色×100)



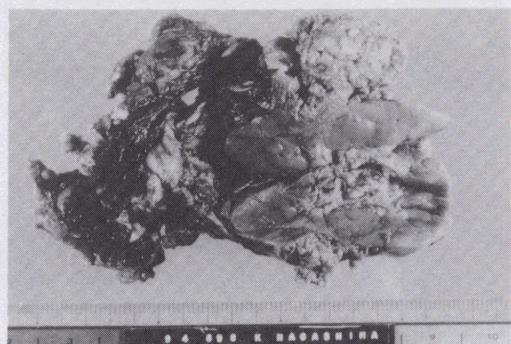
AMLの主要な構成細胞集団の周囲には類円形核を有する裸核細胞が散在性に出現し、核の大小不同や核内細胞室封入体のみられるものもあった。(図4)

図4 脂肪細胞、由来の細胞からなる集団の周囲に核に大小不同のみられる裸核細胞をみる。核内封入体をもつものもある。
(Pap染色×200)



肉眼所見：肉眼的には右腎下極に、腎外に突出する大きさ約6cmの黄色の腫瘍が認められ場所によっては出血性であった。(図5)

図5 肉眼所見。右腎下極に腫瘍がみられる。



病理組織所見：よく発達した中小の小血管を取り囲み細長い紡錘形の平滑筋細胞が増殖しその間を成熟脂肪組織がうめている。(図6)
平滑筋細胞、血管周囲に増殖する平滑筋細胞

は抗平滑筋アクチンに陽性であった。(図7)

図6 小血管腔を囲み紡錘形の平滑筋細胞がみられその間を成熟脂肪織が埋めている。

(HE ×100)

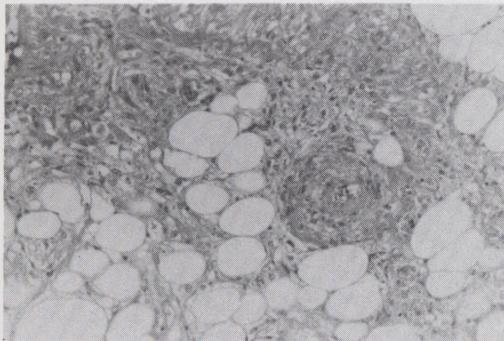
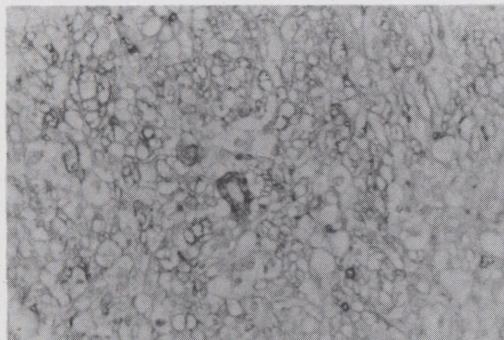


図7 血管平滑筋、血管を囲む平滑筋細胞はアクチン陽性である。酵素抗体間接法×100



考 察

AMLは血管、平滑筋、脂肪組織からなる腫瘍であるが²⁾私たちが経験した症例もこの3つの構成成分が出現しており、AMLの組織像を反映していた。さらに私たちの症例ではそれに加えて、核の大小不同のみられる裸核細胞が出現し核内封入体を有するものもみられた。これらの細胞は広川ら¹⁾が検討した5例中3例に出現していた細胞と同一のものないし類似したものと考えられる。このような細胞がAMLの捺印細胞標本に出現しうることは術中細胞診を見るうえで知っておいてよいことと考え報告した。

文 献

1. 広川満良、伊禮 功、三上芳喜他：腎血管筋脂肪腫の塗抹細胞像。日臨細胞誌、33：452-457、1994
2. 真鍋俊明：問題ある血管筋脂肪腫。病理と臨床：8767-777、1990